



一人ひとりの判断力が 事故を防ぐ



「どんなに立派なルールを作っても」

令和6年、年明けから能登半島地震、また羽田で日本航空機と海上保安機の衝突事故があり、不安な年明けとなりました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

飛行機事故では残念なことに海上保安機の乗員5人が死亡しました。しかし、JAL機の乗員379人は乗務員の日頃の訓練通りお客様を最優先で誘導し、判断したことが命を救ったと思います。

どんな立派なルールを作っても、また対策しても、個人一人ひとりが事故を起こさない「思い」と「判断力」が無ければ、また事故は起きます。

私は草刈班ですが、就業前は必ず朝礼を行います。現場によって危険なポイントは様々です（クルマやガラスはないか／ネットをどこに張るか／どこで無双ツインブレードを使うか／転んだり落ちる場所はないか）。このように班長だけでなく、班員一人ひとりが正しい判断力で仕事に従事すれば事故を減らすことができます。

事務局より

当センターの会員数は現在1,089人、安城市内のあらゆる場所でお仕事に励まれています。安全・適正就業委員会では事故未然防止のため色々と画策していますが、結局は現場で働く会員さんの安全意識が事故の予防に繋がります。

朝礼やKYT（危険予知トレーニング）で意識は変わり、その意識は他の会員に伝播します。ぜひ職場で安全（ヒヤリハットや過去の事故の共有など）について話し合い、組織全体で安全意識の底上げをしましょう。

**今年こそ、事故のないように
判断力を身に付けて1年頑張りましょう！**